

大雨や台風のときの避難について



風水害のときの避難には、時間の経過や被害の程度により、以下の2種類があります。

一時的に待機をするための避難



災害時の危険を回避するために一時的に避難し、身体・生命の安全を確保するために、災害が過ぎ去るまで待機をします。

あらかじめ風水害の発生は予測できるので、食料・飲料など最低限必要の物は自分で準備しよう。

一定期間生活をするための避難

災害などにより、居住場所を確保できなくなった場合に、一定の期間避難生活をします。



一定期間生活を送るための食料・飲料は、ある程度市でも準備しています。

どこへ避難したら良いの？

基本的には、市指定の風水害等避難所（広報とば平成27年5月号・市ホームページ掲載）です。どこの避難所が開設されているかは、災害時にとばメールで配信しますので、事前に登録しておくとう便利です。

ポイント!! 市指定の避難所へ逃げるほうが危険な場合や、より安全な場所がある場合には、自宅や近所などの建物内にとどまって安全を確保しましょう。

避難所の開設・運営について

一時的に待機をするための避難の場合、避難所の開設は、市職員（災害時地区指定員と言う）が行います。一方で、一定期間生活をするための避難の場合、避難所の開設・運営は、災害時地区指定員、町内会・自治会、施設の管理者などが連携して行いますが、避難生活が長期間に及ぶ場合がありますので、できるだけ早く、避難者を中心とした運営に移行することが重要です。

避難者の受け入れやスペースの割り振り、避難者名簿の作成、生活ルール作りなどを行い、少しでも快適な避難所生活ができるよう、避難者同士で力を合わせる必要があります。

6月3日、ベストファザー賞が発表され、日本で最も素敵なお父さんが各界から選ばれました。みなさんが考えるベストファザーとは？

今と昔の父親像を比べてみると、1960年代、高度成長期は父親を頂点に序列があり、「地震、雷、火事、親父」と言われ、「頑固で怖い」「一家の大黒柱」「仕事を優先」といったイメージがありました。1980年代になると、核家族化が進み、「亭主元気で留守がいい」といった流行語の言葉のとおり、女性の社会的地位が向上し、家庭内でも夫婦が対等なものとなってきました。

その後、バブルがはじけ、リストラ、減俸など父親だけの働きでは生活が成り立たなくなり、夫婦共働きが増え、父親も徐々に家事や育児に関わるようになり、家事の分担意識が徐々に広がってきたように思われます。

現在、少子化が進み、人間関係が希薄になってきたと言われ、家庭において、親子の序列も崩れ家族間の関係も、よりフラットな形へと変化してきました。子どもは親に対して友達感覚で接し、親は子どもに気を使う。そうした、家庭のありかたが、さまざまな問題に影響を及ぼしています。

ライフスタイルは、各家庭によって違いますが、一家の長である父親の役割、立ち位置を夫婦や家族みんなで話し合い、我が家のベストファザーを目指してみませんか。

一人一人が備えてこい！
防災力UP！鳥羽

総務課防災危機管理室



☎ (25) 1118

vol.25

とばメール登録方法

こちらのQRコードからメールしていただくか、☒t-toba@sg-m.jpに空メールを送信し、折り返し届くメールから登録手続きをしてください。



イコールパートナーシップ

Vol.119



理想の父親像

市民課人権・生活係

☎ (25) 1126